

## ワークショップ

### 「炎症性腸疾患治療薬選択のためのバイオマーカー」

司会 内山 和彦（京都府立医科大学消化器内科）

柿本 一城（大阪医科大学第二内科）

炎症性腸疾患の内科治療は、抗 TNF  $\alpha$  抗体製剤の登場を皮切りに目覚ましい発展を遂げた。近年では抗  $\alpha 4\beta 7$  インテグリン抗体、抗 IL-12/23 抗体、JAK 阻害剤といった新規治療薬が続々と登場し、患者の予後も大きく改善されてきている。一方、多様な治療選択肢の中から最適な治療薬を選ぶには、薬剤の作用機序のみならず、個々の患者の病態を考えることが重要となる。そのため疾患の病態を反映するといった、治療薬の選択に有用なバイオマーカーの開発が望まれている。本ワークショップでは、基礎と臨床の両面から演題を公募し、治療薬の選択および変更の根拠となるようなバイオマーカーのエビデンスを収集し、より良い炎症性腸疾患診療を目指して活発な議論を行いたい。